

■普及所から⑧5■

早期稲

(育苗から田植えまで)

今年の稲作シーズンも、いよいよ本番を迎えようとしています。今回は、育苗から田植えまでについて簡単に述べてみます。

■育苗準備

育苗に適する用土は、通気性、透水性がよく、かつ保水性、保肥力のある無病の山土です。この土が細かすぎると、透水性が悪く、苗木枯死性病害(根枯細菌病等)の原因になるので、特に注意が必要です。用土の必要量は、覆上も含めて、一〇坪当たり稚苗では七〇㍏、中苗では一二〇㍏程度です。

■育苗管理

稲の生育を順調にするためには、植え付けた苗が、早く活着することが重要です。そのため

には①植え傷みがない、②新根の発生が良いことがたいせつになります。つまり、「健苗作り」が最大のポイントとなります。

特に、不良環境(低温・冷水・寒風・冠水等)ほど苗の良否が大きな差となって現れます。

(1)種子予措 病害虫の無い充実した種子を確保するため、塩水選と種子消毒を必ず行います。塩水選は比重一・〇六以上として、沈んだ籾だけを利用します。

種子消毒は、いもち病・ばか苗病防除のため、トリフィン乳剤・水和剤やベンレート水和剤を用いて所定の方法で実施します。

なお、根枯細菌病の心配される場合は、スターナ水和剤の混用で同時に防除します。

(2)浸種と催芽 発芽を齊一にするため、浸種を七〜十日間行います。この際、最初の二日間は種子消毒の効果安定のため、換水はしません。催芽は、三〇度で齊一に行い鳩胸状態(白い芽が一㍏程度)とします。

(3)播種 箱当たり播種量は、稚苗では一六〇㍏、中苗では一〇〇㍏を基準として、薄播を励行します。床土への灌水は、播種前に箱当たり〇・五〜一㍏として、過湿を避け、立枯病を予防

し、根張りをよくします。

(4)出芽・緑化・硬化期 出芽の適温は三〇度で約二日間、出芽終了時の芽の長さは、稚病で一〇㍏、中苗で五㍏とします。芽を長く伸ばすと、腰の低いずんぐり苗(健苗)になりませんので特に注意が必要です。緑化期の適温は、昼間二〇〜二五度、夜間一五〜二〇度で、二日間程度とします。この時期の高温は、徒長苗の原因となりますので、温度の上がりすぎは要注意です。

硬化期の適温は、初・中期、昼間一五〜二〇度、夜間一〇〜一五度ですが、ハウスでは、昼間の高温に特に注意して、換気を十分に行います。田植一週間前ごろからは、昼夜とも外気に慣らして、植傷みを防止します。

元肥は、一般的に多くなりがちですが、多肥は、生育初期から過繁茂となって、草はできたが穂にならんという秋落ち型の稲になりますので、施肥量を控えて、穂肥で調節できる稲にします。

密植・太植えで多収との考え方が多いようですが、これは稲の茎(稈)が細くなり、穂が小

さくなる・倒伏に弱くなる・病害虫発生の好環境となるなど、決してよい条件ではありません。裁植密度は、ナツヒカリなどで坪当たり六十株、コシヒカリでは五十株程度として、秋優り型

の穂としましょう。 ※詳しい内容等については、例年のとおり、各地区での育苗検討会で協議をすることになります。

建設工事指名願、物品見積競争参加

受付は3月1日〜20日

建設工事指名願

平成二年度の南国市が行う建設工事等の「指定競争入札参加審査申請書」(指名願)の受付は、三月一日から三月二十日までです。

様式は、市内、県内業者は県指定様式、県外業者は建設省統一様式です。市内業者は、市税納税証明書添付してください。証明書(一部二百円)は、税務課税務管理係で発行しています。また、経営事項審査を受けた業者はその通知書の写しを添付してください。

申し込みは、財政課財政係まで。郵便でも受け付けます。

なお、水道工事については、水道局へも別途提出が必要です。

物品見積競争参加

平成二年度の南国市が購入す

る物品の競争見積参加の申請書の受付は、三月一日から三月二十日までです。

物品購入(印刷、修繕を含む)の入札に参加を希望する方は、財政課まで提出してください。

申請書は財政課で交付します。 ※受付は隔年度制のため、二年度のみ追加受付です。元年度申請している方は必要ありません。ただし、申請内容に変更が生じたときは、そのつど変更の手続きが必要です。

なお、詳しいことはそれぞれの係でお尋ねください。

◎財政課財政係 (〒783 南国市大埔甲二三〇一) ☎2111内線412)

◎水道局 (〒783 南国市大埔甲一九六〇一) ☎1234

11

12

13

14

15

16

17

18

19

20

21